

3. まちなみガイドライン

3-1 まちなみガイドラインを活用する前に

住吉大社周辺地区がめざす、まちなみの将来イメージを表すテーマと、まちなみづくりの4つの柱をたてました。そして、具体的な修景方法を「修景ガイドライン」に示しました。まちなみづくりは、主に道路から見える建物や塀などの外観を「修景」することを言います。

3-2 住吉大社周辺地区がめざす、まちなみの将来イメージ

■まちなみづくりのテーマ

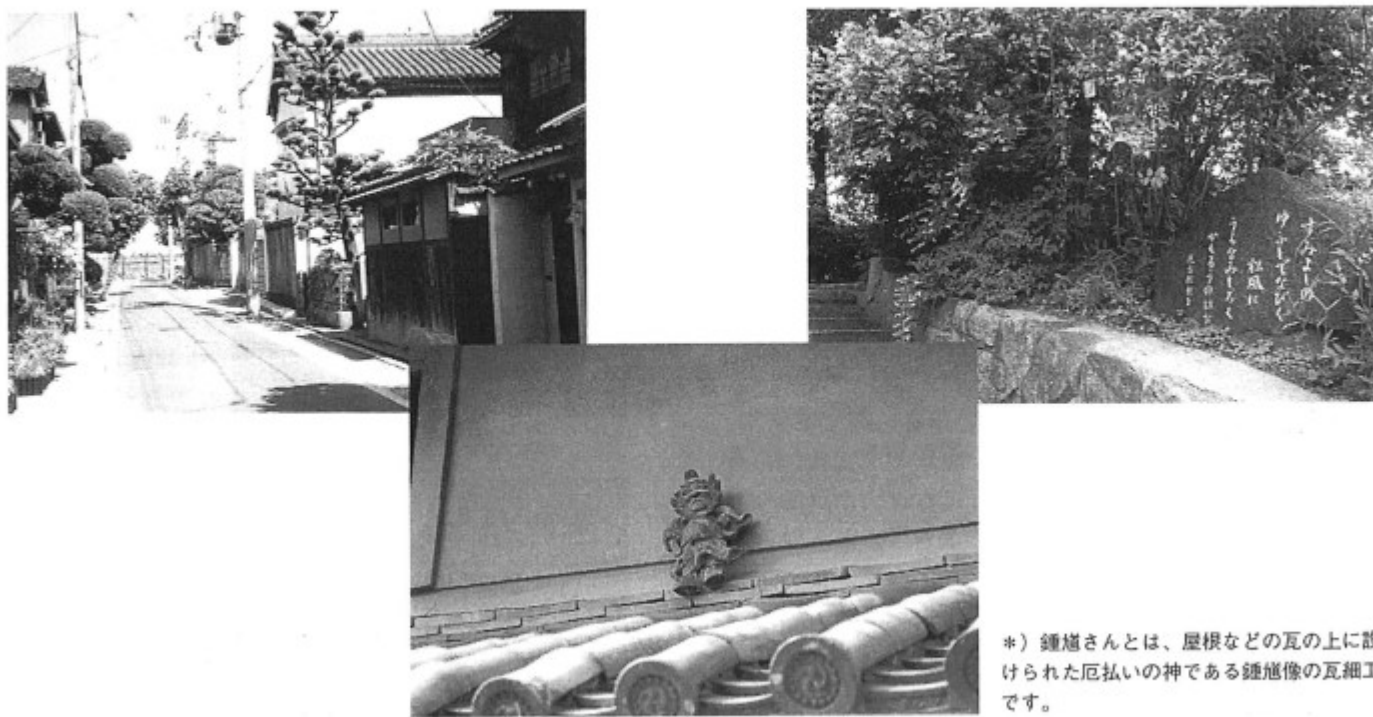
住吉らしいまちなみづくりの共通テーマは次の通りです。

住吉の歴史と人が育む 四季に映えるまちなみ

住吉の伝統的様式の建物は、日本の風土に合うように知恵をこらし、木や土のぬくもりがあり、繊細で美しいデザインとなっています。軒庇は提灯を飾ったり雨宿りの場所となり、また塀越しに顔をのぞかせる緑や花、水が打たれた土間などが、まちなみに潤いを与えています。

一方、街道や路地を歩くと、住吉大社の大社林をはじめ境内の豊かな樹林、まちかどの古木や鉢植え、かきつばた苑や卯の花苑など、季節の花や実を楽しめ、歴史や文化を感じる緑がみられます。社寺や地藏堂と鮮やかなのぼり、石灯笼や鳥居、軒の鍾馭*（しょうぎ）さんなど、散歩をしていて心安まる場面もたくさんあります。お祭りや花鳥風月を楽しむ年中行事も盛んで、人どうしのふれあいも残っています。

このように、都会にあって四季折々に風情を感じるまちなみは、長い歴史の中で人々によって培われたものであり、住吉固有の文化といえます。このような、四季に映えるまちなみを、みんなの協力で点から線へ、線から面へとひろげていきましょう。



*）鍾馭さんとは、屋根などの瓦の上に設けられた厄払いの神である鍾馭像の瓦細工です。

■まちなみづくりの4つの柱

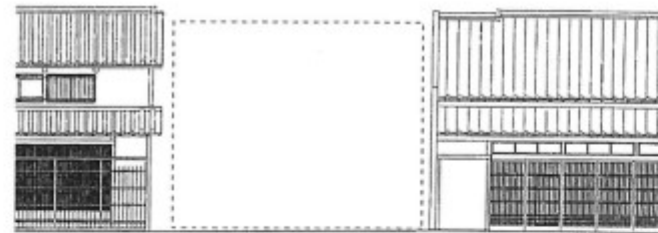
1. 伝統的様式の建物は、化粧直して大切に使いましょう。

往時の住吉の面影を伝える町家などの建物や軒上の瓦細工は、そこから多くを学ぶこともできる、まちの貴重な財産です。化粧直して大切に使いましょう。現代の生活や商いに合わせて磨きをかけることで、次の時代に伝わっていきます。



2. 新築や増築するときは、まちなみとの調和を工夫しましょう。

これから建てる建物が、まちなみにうまくとけ込みながら、まち全体に新しい魅力がでるように工夫しましょう。そのために、伝統的な建物の知恵をデザインに活かしましょう。



3. 古木を大切に、植栽でまちなみを引き立てましょう。

周囲の景色や自然の移ろいを取りこみ、まちなみに趣を与えるような伝統的な庭づくりの知恵を現代に活かして、建物やまちなみを引き立てましょう。



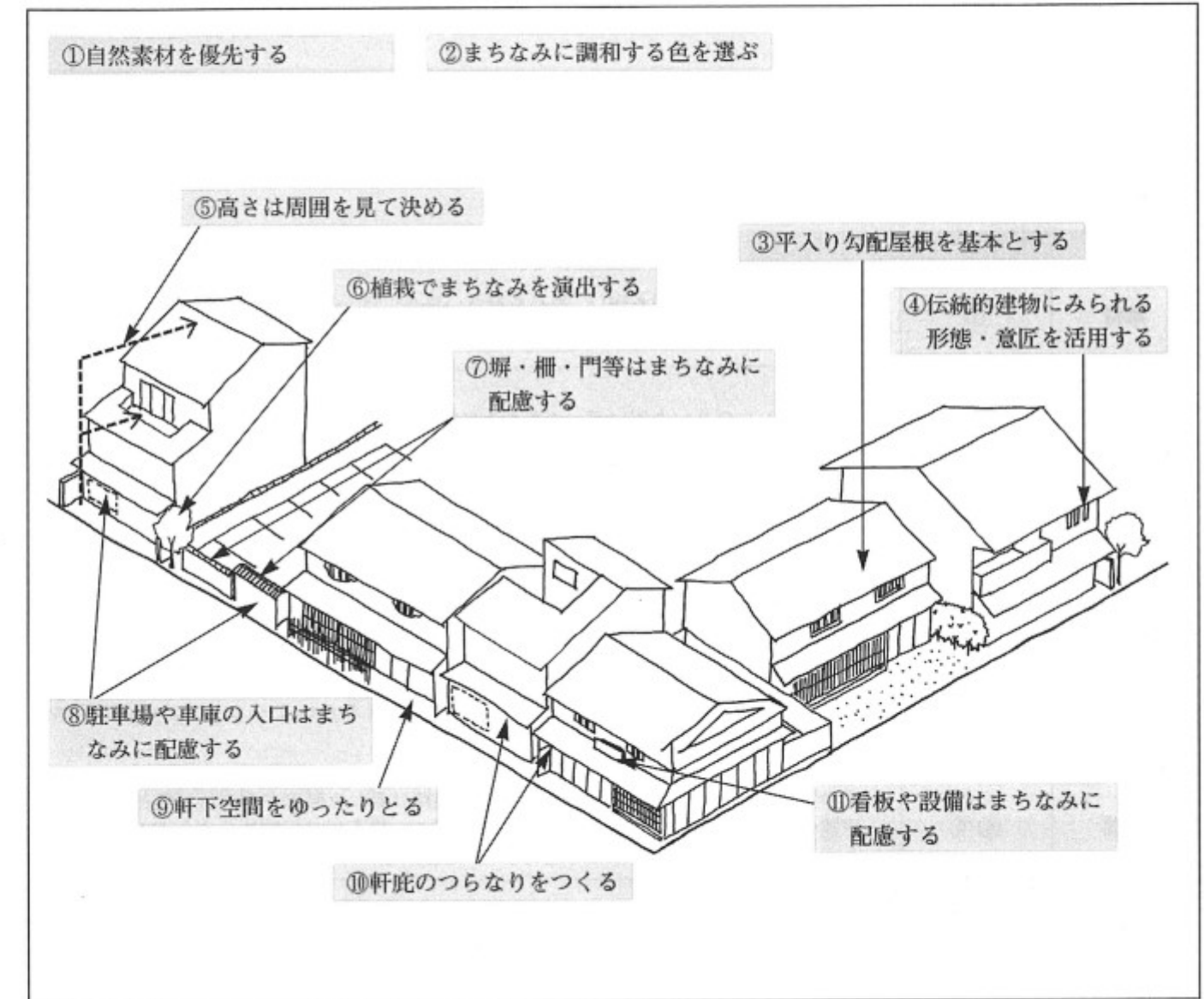
4. まちに残る歴史・文化の資源を活用しましょう。

町家などの他にも、旧街道や寺社、祠や地藏堂、かきつばた苑や卯の花苑など、歴史や文化を伝える場所がたくさんあり、通りごとにも表情が異なります。これらの場所を大切にすることで、まちなみに磨きをかけましょう。



3-3 修景ガイドライン

■修景のポイント



伝統的建物の修景事例（平野郷地区の事例）



修景前

修景



修景後